

第57回インテリア設計士資格検定試験実施

7月8日・9日／全国21会場

第57回インテリア設計士資格検定試験が7月8日・9日に全国13支部協会・21会場で行われた。試験当日は九州豪雨の影響で熊本・大分会場が心配されたが、大きな混乱はなく無事に実施することができた。

受験・合格の結果は別表のとおりで、受験者801人(前年比98%)、合格者(登録予定者)は595人(同96%)で昨年と比較すると若干の減少であった。

試験問題についてはインターネットのホームページで見ることができるが、「2級実技課題」は例年どおり「私室のインテリアデザイン計画」である。今回は23.11㎡の空間の西側壁面を造り付け家具スペース(3.6m×0.65m)とし、南面壁面の右側に3.15m×0.45mの凸部スペースを設けた。今回は掃出し窓をなくしプランの自由度を増やした空間構成とし、天井に段差を設け変化にとんだ空間演出をしているところがポイントであった。

図面は全体的にレベルアップしているが、問題の読み間違いで学校によっては共通の間違いをしているのも多く見受けられた。要求内容を最初に整理していれば単純な減点が防げる回答もあり、指導者への説明会の実施や冒頭会長が述べられたような体制づくりが必要である。

「2級学科試験」は出題数においては18問(昨年19問)、アイテム数は159アイテム(昨年149)で、昨年と比べ1問減りアイテム数は10増えているが、平均点73.0(合格ライン65点)から考えると適切であった。

※1級については割愛する。



実践女子大学試験会場風景

受験者数と合格者数

(合格/受験)

	1級		2科目	2級			受験者 合計	登録 予定者
	認定	昇級		2科目	実技	学科		
宮城	-	-	-	51/64	1/1	0/1	66	52
福島	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉	5/5	1/1	-	48/52	-	-	58	53
神奈川	-	-	1/1	1/1	-	1/1	3	2
富山	-	-	-	-	-	-	-	-
石川	-	-	-	17/22	-	-	22	17
愛知	-	-	1/1	47/49	1/4	5/10	64	49
京都	-	-	1/1	256/375	-	-	376	257
大阪	-	-	1/2	34/53	-	-	55	35
兵庫	-	-	-	1/1	-	-	1	1
奈良	-	-	-	22/22	-	1/1	23	23
鳥取	1/1	-	-	1/1	-	-	2	2
広島	-	-	-	7/16	-	0/2	18	7
山口	-	-	-	-	-	-	-	-
高知	-	-	-	49/64	1/1	-	65	50
長崎	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本	-	-	-	47/48	-	-	48	47
合計	6/6	1/1	4/5	581/768	3/6	7/15	801	595

業界で活躍するインテリア設計士

人に伝える

村山 紀子

設計事務所に入ったばかりの頃、先輩の描いた平面図から平面詳細図と展開図を作成するのが私の仕事でした。手描きの時代で、線を一本引くにもたくさんのことを調べたり教わったりしました。今はCADがありますので、誰でも簡単に図面やパースを書くことができるようになり、表現の幅も格段に広がっています。

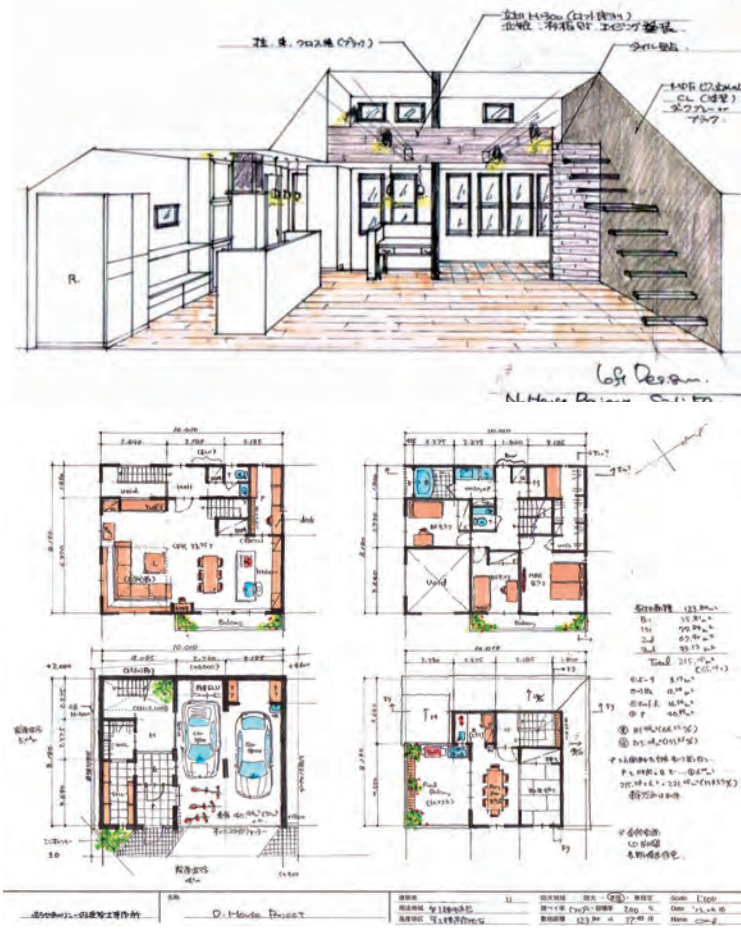
しかしそれらは、施主や現場に伝えるための手段です。一枚の図面は、時にはプレゼンをし、また現場で指示も出さねばなりません。人々に分かり易く明確に伝えられることが大切になります。インテリアも建築もそれは同じで、あふれる情報を処理し、的確に判断し、人に伝える力をもった図面やパースを作る、本当に大変ですが楽しい仕事です。

また私は、昨年インテリア設計士を取得しました。資格だけあっても昔はよく言われましたが、いまは資格があることが仕事をしていく上での前提となってきました。それは、施主に自分の能力を伝える第一歩であり、何ができるのかを資格が伝えてくれます。

そんな伝えることの重要さを日々実感しながら、間もなく開業五周年を迎えます。



インテリア設計士1級(2241) 2016年登録
むらやまのりこ一級建築士事務所代表
埼玉県インテリア設計士協会所属



SJIT通信

communication

一般社団法人

日本インテリア設計士協会

編集：日本インテリア設計士協会 会報編集室
〒541-0059 大阪市中央区博労町1-6-14
Tel. 06-6262-1488 Fax. 06-6262-1553
E-Mail. sjit@jp-interior.or.jp
発行責任者：足田 友一 編集：事務局

さらなる協会の活性化を目指して！ 会長 足田 友一



5期目の抱負を語る

今年度の総会における役員改選で、再度会長職を拝命いたし、今までにも増して協会の活性化に向けて最善の努力をしていく所存です。今回は特に副会長、専務理事の人事において思い切った若返りを図ったことによって、活力と実行力のある体制づくりを目指します。

総会後、6月に会長・副会長・専務理事の三役会を開き、諸問題の改善・改革・実行について話し合いました。前年に立ち上げた「活性化委員会」を今回の三役会で代行し推進します。

第57回インテリア設計士資格検定試験の結果は昨年度より若干の減少という結果で終わりました。(4ページに掲載)

1級は受験者数が少ないですが、実務経験者として実技のレベルは高く、2級は一般社会人が少なく、工業高校から大学、専門学校の受験生がほとんどでしたが、年々実技のレベルが高くなってきています。中でも高校生の作品に素晴らしいものが多く見受けられました。これは受験に取り組む先生の熱意と適切な指導の結果だと思います。これからは、協会会員の中から、実技・学科を指導できる人材を養成し、教育マイスター制度を立ち上げ認定して、各学校にも派遣できる体制を整えることが大事だと考えています。

目標の受験者数1,000人にはまだまだ遠い結果ですが、インテリア設計士資格制度の広報と支部協会活性化により目標は必ず達成できます。過去の受験者数を見ると、第43回から第50回まで1,000人を超え、第46回は1,336人と最高の数値を達成しています。その頃は全国で27支部もあり、最盛期を迎えていたのです。

今後、支部組織の強化、消滅した支部の復活、新支部の増設、ブック制による支部協会間の連携活動や知名度アップ、対外広報活動の強化による協会の活性化などを本部、各支部役員及び会員一丸となって取り組まなければならないと考えています。

ここで、支部役員と会員の皆様に再度認識をしていただきたいの

第50回全イ研 三重大会に参加して 全国高等学校インテリア科教育研究会



8月3日、三重県伊勢市の神宮会館で開催された全イ研の三重大会に、賛助会員として私と古田副会長が参加しました。参加者は来賓2人、会員42人、賛助会員9人の計53人でした。午前中に講話「次期学習指導要領を見据えた工業教育の充実について」(文部省、持田雄一氏)と総会、午後から講演「都市・農村交流を目指した製材所におけるものづくり教室～コミュニティデザインの視点から～」(東北芸術工科大学准教授、醍醐孝典氏)と第11回高校生ものデザインコンテスト表彰式、3校の研究発表①鹿児島県立鹿児島工業高等学校インテリア系「実習・課題研究の取り組みについて」②千葉県市川工業高等学校インテリア科「『中高大連携教育プロジェクト』in外苑 2014 2015 参加報告」③東京

は、インテリア設計士とはどんな資格なのかということ。インテリアコーディネーターやインテリアプランナーとの違いを的確に説明できますか。

現在のインテリア設計士協会は、今から60年前の1957年、大阪、京都、兵庫の家具製造業者を中心に「より良い家具の提供」を目的とし、デザイン・設計技術の向上を図るため「全日本室内装備設計士協会連合会」として発足、4年後の1961年から「室内装備設計士資格検定試験」を実施、今年で57回目を迎えます。発足から10年後の1967年には法人格を取得し「SSS社団法人 日本室内装備設計技術協会」と改名、1984年には時代の流れに沿った名称として、それまでの「室内装備設計士」を「インテリア設計士」に改め、2013年に「SJIT一般社団法人 日本インテリア設計士協会」と正式名称変更をしました。前述の発足の過程から分かるように、基本は「ものづくり」にあり、「インテリアと家具の生産・施工」に軸足を置きながらデザイン・設計から監理まで、インテリアの全ての設計技術を兼ね備えた資格制度であると理解していただきたいと思います。

一方、インテリア産業協会の資格制度であるインテリアコーディネーター(1983年発足)はインテリアの流通・販売を主体とし、建築教育普及センターの資格制度であるインテリアプランナー(1986年発足)は建築物におけるインテリアの計画・設計・監理を主体とし、そのどちらも「ものづくりとしての生産・施工」を重要視していません。

この三つのインテリア資格制度は職能やその役割と成り立つ基盤により異なりますが、お互いにそれぞれの特色を生かし共存共栄していくことが望ましいと思っています。

日本インテリア設計士協会をより健全で強力な組織にし、人材育成や社会貢献に力を注ぎながら、インテリア設計士の地位確立と安全で快適なインテリア空間と家具の創造を目指して皆様と共に一致団結し、協会の活性化に取り組みたいと思いますので絶大なご協力をお願い致します。

都立工芸高等学校インテリア科「森から始めるものづくり～『人間と社会』の授業を通して」などが行われました。

会場内に展示された「高校生ものデザインコンテスト」の受賞作品は、デザインや設計作品もある中で、家具や照明器具、工芸品などには素晴らしい作品が多く見られました。これは工業高校の基本となる「ものづくり」に重点を置いた教育と当協会の「ものづくり」との共通点があると感じました。

18時からの懇親会では、古田副会長とともに参加者の先生方、賛助会員の皆様方と名刺を交わし、インテリア設計士について詳しくお話をさせていただき、2級インテリア設計士資格検定試験への受験依頼をしました。今回の参加による対外広報活動でかなりの成果が期待できるものと思います。大会参加校には挨拶状を添えて、協会のリーフレット、受験案内と各種テキスト、過去問題集、SJIT通信などを送付しますので、各支部における工業高等学校インテリア科への学校訪問などよりしくお願い致します。(記・足田 友一)



SJIT 第51期通常総会 in 倉吉

2017年5月13日・14日 / 倉吉シティホテル

一般社団法人日本インテリア設計士協会・第51期通常総会



一般社団法人日本インテリア設計士協会の第51期通常総会は5月13・14日、赤瓦・白壁土蔵群で有名な鳥取県・倉吉市で開催された。初日の総会は全国の支部協会から倉吉シティホテルに総勢60人が集まり、定刻どおり午後4時にスタートした。

最初に昨年度亡くなられた理事役員ならびに協会の先駆者の御霊に黙祷を捧げた後、足田会長の挨拶、その後議案審議に移った。

1号議案から順調に進んだが、今期は人事改選の年にあたり、3号議案の役員改選の経緯については、奥田専務理事から詳細な説明があり、足田会長の続投をはじめ役員人事が決定した。(右表のとおり)

収支報告では残念ながら赤字決算であったが、全国支部協会による「インテリア講座」や「デザインコンペ」の実施、「SJIT通信」の発行など来期に希望を与える一年であったと報告があり、来年度の総会は神奈川県支部での開催が決定した。



総会後は鳥取県庁職員(1級建築士)の林拓磨氏による「リノベーションまちづくりの実践」と題した講演が行われ、駅前商業施設の屋上スペースの再生、過疎化問題への取り組み、人を集め「まちを動かす」ことへの挑戦を短時間のなかで熱く語っていただいた。

その後の懇親会では鳥取の傘踊りや毎年恒例となっている支部紹介で盛り上がった後、40年間協会を牽引された奥田顧問に感謝状が贈られた。



鳥取支部のメンバー

2日目の見学のメインは「日本一危険な国宝」と言われている三徳山三佛寺の「投入堂」参拝である。住職の説明を聞いた後、登山と講話のコースにわかれて見学した。

登山コースは途中で引き返す人もでるなど想像以上の険しさであったが、投入堂にたどり着いた時の達成感や格別であった。その後、倉吉の白壁土蔵群景観保存地区を散策し、昼食後解散となった。

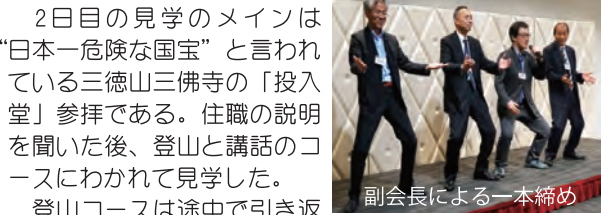
鳥取支部の皆さん、思い出深い総会をありがとうございました。



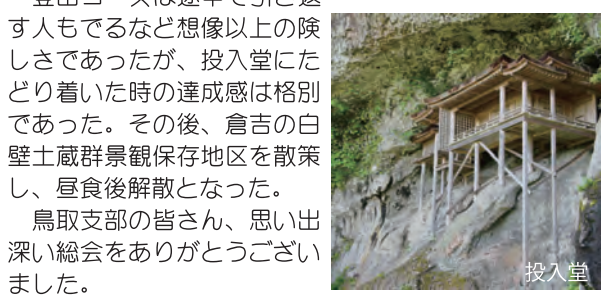
三仏寺本堂前にて

平成 29・30 年度役員

役職	氏名(地域等)
会長	足田 友一(大阪)
副会長	古田 廣己(愛知)
"	上岡 直司(高知)
"	河野 洋二(大阪)
"	元山ゆたか(京都)
専務理事	岡崎 正明(定20)
常任理事	須藤 秀晴(宮城)
"	山野 勇治(熊本)
"	加藤 幸治(愛知)
"	八木 光也(京都)
"	久保 剛(兵庫)
"	黒坂伸也(神奈川)
"	出蔵 裕之(石川)
"	河村 幸次(愛知)
理事	浮ヶ谷 稔(福島)
"	戸井口 剛(埼玉)
"	小川 文雄(東京)
"	後藤 敏夫(富山)
"	水谷 秀雄(愛知)
"	藤本 進(京都)
"	日下部博茂(京都)
"	高木 善次(京都)
"	柘植 勢也(京都)
"	小長谷 光(大阪)
"	菅原華代子(兵庫)
"	田淵 弘(奈良)
"	倉恒 俊一(鳥取)
"	藤原 美樹(広島)
"	北村 元重(山口)
"	高谷 一義(長崎)
"	佃 正義(熊本)
"	近藤 正一(熊本)
監事	井口 彰夫(京都)
"	伊藤千加志(愛知)
名誉会長	植田 益夫(大阪)
顧問	奥田 忠彦(定20)
参与	宮 後 浩(大阪)



副会長による一本締め



投入堂

支部協会紹介のページ

HIS 兵庫県インテリア設計士協会

事務局：姫路市錦町 67 階板文内
〒670-8588 TEL. 079-282-0031
会長：利安 武 / 事務局長：平松 茂実

兵庫県は最初神戸に(社)日本室内装備設計技術協会兵庫支部がありました。その当時、姫路は家具店、装飾業者が多くあり先人たちは技術向上、育成に力を注いでいました。その勢いは大変なもので、本来はひとつの県にはひとつの支部の設置が決まりであったにもかかわらず、姫路にも(社)日本室内装備設計技術協会姫路支部が誕生しました。

その後、阪神・淡路大震災の影響もあり、兵庫支部も姫路支部が引き継ぐことになりました。

後進の育成、スキルアップの為に設計士の講習会を40数年前から実施し、その数年後に姫路市の共感もあり、姫路市主催の職業訓練講座として開催するまでになりました。講習会の講師は会長や役員で担当し、資格取得者を数多く出し、兵庫県内外



生活を楽しむ講習会 2017年テーマ「蒲鉾」 於：(株)ハトヤ

TIS 東京都インテリア設計士協会

事務局：東京都中央区築地 1-8-1
亀井橋ビル 7F
〒104-0045 TEL. 090-3682-6969

TIS再始動

東京支部事務所開設にあたりご挨拶申し上げます。

次年度から正式に東京支部を開設する運びとなりました。

2020年の東京オリンピック 会長 小川 文雄、SJIT(日本インテリア設計士協会)では来年の総会が神奈川・東京支部合同で開催されます。

ここ数年で消費者のニーズが大きく変わろうとしています。メーカーの材料の開発や企業間の連携した展示方法や消費者の利便性を考慮されたショールーム展開が良い例かと思えます。

また我々も常に問題意識を持って対応しなければなりません。そのためには東京・神奈川・埼玉と近隣の支部同志の協力で勉強会やイベントの開催を通して会員同士のレベルの向上を目的として活発化しなければなりません。また、他のインテリア団体との連携や交流が必要なことと思えます。

東京が情報の発信基地となる様な体制をつくりたいと思っていますので、皆さまの温かいご支援とご協力をお願いします。



40年の思い出

前専務理事 奥田 忠彦

「SJIT通信発行にあたり、今までの業績や協会への深い思いなどを書いて…」といわれましたが、業績は他人が評価するもの、また、退任が決まり、その後検定試験のお手伝いも一段落した今、深い思いなどないのが偽らざる思いです。でも、長くお世話になった協会生活には多くの思い出があります。

協会と関係ができたのはちょうど40年前、38歳のときでした。当時カメラマンの私に「社団許可10周年記念祝賀会」のスナップ撮影の依頼があり、その後関係が深まり職員にというのがきっかけです。祝賀会は万博記念公園迎賓館で行われ、全国から多数の役員らが参加され、それは盛大かつ厳粛なものでした。しかし、外から隆盛そうに見えた協会の状況はそれほどではなく、また、長くは続きませんでした。

当時は「室内装備設計士」といっていましたが、その受験数は減る一方で、いろいろな手を打ちました。その一つは「室内装備設計士の国家資格化」で、役員→代議士を通じ建設大臣に面談・陳情をしたこともありますが、通産省管轄下の当協会の言い分は聞き入れられるべくもありませんでした。

次の一手は、今までは卒業するまで受

試験できなかった「学生に門戸を広げる＝学生のうちに受験させる」ことで、『2級補』としてスタートしましたが、後に『2級』と合流し協会持続の原動力になっています。

当初「資格の劣化」という批判も受けましたが、現在では「教育普及事業」として当協会の中心事業になっています。それも、学生数の減少、学校当局の運営方針変更などにより苦境に立たされてはいますが、まだ受験していない学校も多数あり、やり方一つで活路はあるものと思えます。

少々遅きに失した感がありますが、全イ研への働きかけ、文科省のお墨付きなどに全力投球し、これからのSJIT再建設に努力されることを心から期待し、40年のお礼の言葉とします。



10周年記念祝賀会

この欄では順次各支部協会のご紹介を致します。次はこの支部協会が指名されるのか・・・ご準備ください！未登場で、ご希望の支部はお申し出ください。



2016年新年総会

に逸材を輩出してきました。また、兵庫県インテリア設計士協会では色々な事業を運営委員会を設立して企画・実行しています。

月例会として勉強会、事業の企画等色々な話し合いをしながら推進し、建築様式や街並み見学、美術鑑賞、創作体験等を盛り込んだ一泊や日帰りの研修旅行を毎年開催しています。酒蔵見学も平成10年度から19年継続して開催しており、5年前からは「生活を楽しむための講習会」を毎回テーマ(野菜・出汁・肉など)を設けて実施しています。

さまざまな事業を実施しているせいか、インテリア設計士の資格を持っているメンバーでありながら多種多様な仕事についている人で構成されていますが、これからもメンバー全員、人生を豊かに過ごすとともに、仕事を通じあらゆる人たちと接しながらこの協会に携わり盛り上げていきたいと思えます。(事務局長・平松 茂実)